

入試情報

| 入 試 日 | 願 書 提 出 | 合 格 発 表 | 内 申 点 計 算 方 法 |
|--|-------------------|---------|---------------------------------|
| 学力検査: 3/8(火) 学校独自検査: 3/9(水) | 2/19(金) ~23(火) | 3/14(月) | 9教科×5段階評価×3学年分 (9×5×3=135満点) |



傾向

昨年度より入試制度が変更になり、学力検査の翌日に各学校で定められた「学校独自検査」が導入された。内容は①筆答検査A/B ②面接 ③PRシート ④実技検査 ⑤課題作文となっている。前回の筆答検査A/Bは、いずれも学力検査より難易度の高い問題が出題され「応用力」や「思考力」が問われた。また、学校独自検査は学校により配点も異なるため、前回の試験内容を確認し早い段階で準備をしておくことが必要となる。学力検査に関しては、例年出題傾向に大きな変更はないので、基礎の定着と過去問研究が合格のカギを握る。

科目別対策

英 語

大問は4問で構成。例年、8割以上得点する受験生が多く、基礎的な問題が多く出題される。まずは英単語や文法、基本文型の復習を重点的に行い、習得しよう。その上で、条件英作文の対策や長文読解で速く正確に読める力を身につけていきたい。英語で問われて英語で答える問題もあるので、5W1Hを意識して問題演習を重ねよう。

数 学

大問は6問で構成。数学は問題数が多く難易度が高いが、制限時間は短い。そのため、問題形式に慣れておき、速く正確に解く力が求められる。また、100点満点を狙うのではなく、解けそうな問題から解いて着実に得点しよう。特に関数や図形、資料の活用などの単元は、難易度が高く出題頻度が高いので、十分な対策をして試験に臨みたい。

国 語

大問は4問で構成。記述問題の字数が多いことが特徴。現代文では、文章を正確に読み取る力と、読み取った内容を端的にまとめる力が必要になる。古文は歴史的仮名遣いや古文の口語訳のほか、文章の内容や登場人物の心情を記述で答えるなど、より深い読解力が求められる。例年漢字、文法、語句が出題されるため、確実な得点源にしておこう。

理 科

大問8問で構成。まずは基本的な用語の整理をして、計算問題や記述問題の対策に時間をかけよう。計算問題については公式をそのまま適用すれば解ける問題もあるが、複合的な要素が絡み合った問題も出題される。電流、力の規則性は過去5年間毎年出題されているので、苦手な人はできるまで繰り返し演習しておくようにしよう。

社 会

大問は6問で構成。地理、歴史、公民と中学での学習範囲がほぼ偏りなく出題される。地理では資料を読み取る力が試されるが、パターンが決まっているので過去問演習を繰り返し行おう。歴史は、特に近現代史の分野で差がつきやすい。基礎用語は暗記するだけでなく、時代背景や前後関係を掴み、記述や統計資料読み取り問題の対策をしておこう。